

## 第 9 回ヒロシマ賞受賞作家決定について

### 1 受賞作家

ドリス・サルセド氏 (昭和 33 年(1958 年) コロンビア共和国ボゴタ生まれ、ボゴタ在住)

### 2 ヒロシマ賞について

ヒロシマ賞は、現代美術の分野で人類の平和に貢献した作家の業績を顕彰し、世界の恒久平和を希求する「ヒロシマの心」を現代美術を通して広く世界へとアピールすることを目的として、広島市が平成元年(1989 年)に創設した賞で、3 年に 1 回授与しています。

### 3 受賞作家決定までの経緯について

- ・ 平成 25 年(2013 年)2 月 推薦委員及び特別推薦委員から、25 名の候補作家が推薦される。
- ・ 同年 3 月 選考委員会で、候補作家 3 名を選考する。
- ・ 同年 7 月 受賞者選考審議会(会長：高階 秀爾 大原美術館館長)で、受賞作家をドリス・サルセド氏に決定する。

### 4 ドリス・サルセド氏について

- (1) サルセド氏は、自国コロンビアをはじめ、世界で横行する暴力や差別などに対して、芸術が強い抵抗の力を持ち得ることを一貫して示してきた作家です。
- (2) 1990 年代前半からヴェネチア・ビエンナーレなどの国際美術展に参加し、日常の家具や衣服などを彫刻として再生させながら、暴力による犠牲者の記憶を静かに訴える作品や、空間全体を死者を悼むための場に変容させるような大規模なインスタレーション\*によって、国際的な評価を確立してきました。
- (3) 平成 19 年(2007 年)には、ロンドンのテート・モダンの床に 167 メートルにわたる亀裂をつくり出したインスタレーションで、さらにその評価を高めています。

### 5 受賞理由について

サルセド氏は、暴力の犠牲となった人々に寄り添いながら、死の悼みを超え、再生への願いを込めた創作活動を行っていること、及び人類史上類を見ない暴力がもたらしたヒロシマの悲劇を、独自の方法で現代と結び付け、観る者に訴えかける展示が期待されることが、ヒロシマ賞の趣旨に相当すると高く評価されました。

### 6 第 9 回ヒロシマ賞受賞記念展について

平成 26 年(2014 年)7 月頃に授賞式を行い、その後夏から秋にかけて、広島市現代美術館においてサルセド氏の受賞記念展を開催する予定です。

#### ※ インスタレーション

現代美術において、従来の彫刻や絵画というジャンルに組み込むことができない作品とその環境を、総体として観客に呈示する芸術的空間のこと。  
『大辞林』第三版(三省堂)より

## 受賞作家略歴

作家名 ドリス・サルセド  
Doris Salcedo

出身地 コロンビア共和国ボゴタ

生年 1958年

## 略歴

1980 ホルヘ・タデオ・ロサノ大学美術学科卒業  
1984 ニューヨーク大学大学院修了  
1989-91 コロンビア国立大学教授  
ボゴタ在住



Doris Salcedo

Photo by Rui Gaudêncio, 2011

Courtesy of Alexander and Bonin

## 主な個展

1985 「Nuevos Nombres」 (Casa de La Moneda/ボゴタ)  
1994 「La Casa Viuda」 (Brooke Alexander/ニューヨーク)  
1995 「La Casa Viuda VI」 (White Cube/ロンドン)  
1998-99 「Unland/Doris Salcedo」 (ニューミュージアム/ニューヨーク)  
1999 「Unland/Doris Salcedo」 (サンフランシスコ近代美術館)  
「Art Now 18: Doris Salcedo」 (テート・ギャラリー/ロンドン)  
2000 「Doris Salcedo, Tenebrae: 7 de noviembre, 1985」 (Alexander and Bonin/  
ニューヨーク)  
2001 「Doris Salcedo」 (カムデン・アーツ・センター/ロンドン)  
2007 「Shibboleth」 (テート・モダン/ロンドン)  
2010-12 「Plegaria Muda」 (Museo Universitario de Arte Contemporaneo/メキシコ  
シティ、Moderna Museet, Malmö/スウェーデン、Fundação Calouste Gulbenkian/リス  
ボン、国立 21 世紀美術館/ローマ、White Cube/ロンドン、Pinakoteka do Estado de São  
Paulo/ブラジル)

## 主な国際美術展

1993 Aperto 93, ヴェネチア・ビエンナーレ  
1995 カーネギー・インターナショナル (ピッツバーグ/ペンシルベニア州)  
1999 リヴァプール・ビエンナーレ  
2002 ドクメンタ (カッセル/ドイツ)  
2003 イスタンブール・ビエンナーレ

## ヒロシマ賞について

### 1 名称

(日本名) ヒロシマ賞

(英語名) HIROSHIMA ART PRIZE

### 2 主旨

美術の分野で人類の平和にもっとも貢献した作家の業績を顕彰することを通じて、広島市の芸術活動の高揚を図るとともに、「ヒロシマの心」を広く全世界にアピールし、人類の繁栄に寄与する。

合わせて、この賞を受賞した作家の展覧会を開催して芸術の発展に寄与し、ヒロシマ賞の意義を高める。

### 3 目的

この賞は、次のことを目的とする。

- (1) 最初の被爆都市として世界の恒久平和の実現を願う広島市が希求するところを、現代における美術の領域においても広く世界に知らせ、人類相互の理解の促進に努め、もって世界平和と繁栄に寄与すること。
- (2) ヒロシマの希求するところと共通する思想を、創作活動等を通じて広く全世界に表現している作家に対し授与してその業績を顕彰すること。
- (3) 作家の創作活動等功績を顕彰し、あわせて展覧会等を開催することで広くその業績を世界に紹介し、今後の美術界のより一層の促進を図ること。
- (4) 世界の平和と人類の繁栄を願う「ヒロシマの心」の意義を、美術の領域において広島市民に紹介することで、地元の美術文化の今後のより一層の発展を図ること。

### 4 展覧会の主催

主催：広島市、財団法人広島市未来都市創造財団

共催：朝日新聞社

### 5 ヒロシマ賞選考の基準

- (1) 美術の分野（平面、立体、映像、デザイン、建築等）で評価の高い活動を行っている個人あるいはグループ
- (2) ヒロシマの心にふさわしい制作活動を行っている個人あるいはグループ
- (3) 美術館で単独の展覧会を開催する意義がある個人あるいはグループ
- (4) 国籍・年齢は問わない。

### 6 事業内容

#### (1) 受賞候補者の選定方法

世界各地の美術館長、美術評論家等で構成する「推薦委員」と、過去の受賞者からなる「特別推薦委員」から推薦された作家等を取りまとめ、国内の美術館長、美術評論家等で構成する「選考委員会」に諮って絞り込みを行う。

その結果を基に、有識者、美術専門家等で構成する広島市ヒロシマ賞受賞者選考審議会で、受賞候補者を決定する。

(2) 授賞式

ヒロシマ賞授賞式を行う。

(3) 展覧会

広島市現代美術館において「ヒロシマ賞展」を開催する。

7 賞の内容

ヒロシマ賞 1名 (1グループ)

副賞 500万円

朝日新聞社賞 記念品

(参考)

回	受賞者	決定年度	展覧会開催期間
第1回	三宅 一生 (デザイン)	平成元年度 (1989年)	平成2年(1990年)11月3日 ～平成3年(1991年)1月15日
第2回	ロバート・ラウシェンバーグ (美術)	平成4年度 (1992年)	平成5年(1993年)11月3日 ～平成6年(1994年)1月16日
第3回	レオン・ゴラブ&ナンシー・スペロ (美術)	平成7年度 (1995年)	平成8年(1996年)7月27日 ～9月23日
第4回	クシュイトフ・ウディチコ (美術)	平成10年度 (1998年)	平成11年(1999年)7月25日 ～9月19日
第5回	ダニエル・リベスキンド (建築)	平成13年度 (2001年)	平成14年(2002年)7月28日 ～10月20日
第6回	シリル・ネシャット (美術)	平成16年度 (2004年)	平成17年(2005年)7月23日 ～10月16日
第7回	蔡國強 (美術)	平成19年度 (2007年)	平成20年(2008年)10月25日 ～平成21年(2009年)1月12日
第8回	オノ・ヨーコ(日本) (美術)	平成22年度 (2010年)	平成23年(2011年)7月30日 ～10月16日

広島市ヒロシマ賞受賞者選考審議会委員名簿

平成25年(2013年)7月9日現在  
(五十音順・敬称略)

岡部 あおみ (美術評論家、元武蔵野美術大学教授)

妹島 和世 (建築家、妹島和世建築設計事務所)

高階 秀爾 (大原美術館館長、西洋美術振興財団理事長) ※会長

永野 正雄 (広島経済同友会代表幹事、株式会社テレビ新広島代表取締役社長)

南條 史生 (森美術館館長)

原田 佳子 (広島女学院大学名誉教授)

深山 英樹 (広島商工会議所会頭、広島ガス(株)代表取締役会長)

福永 治 (広島市現代美術館館長)

部谷 京子 (映画美術監督)

前川 義春 (公立大学法人広島市立大学芸術学部長)

松井 一實 (広島市長)



「無題 (衣装箆筒)」 1992 年  
*Untitled (armoire), 1992*



「寡婦の家 IV」 1994 年  
*La Casa Viuda IV, 1994*  
Photo by D. James Dee



二つの建物の間に積まれた 1550 個の椅子 2003 年 (第 8 回イスタンブール・ビエンナーレ)  
1550 Chairs Stacked Between Two City Buildings, 2003, 8<sup>th</sup> Istanbul Biennial  
Photo by Sergio Clavijo



「シボレス」 2007 年 (テート・モダン、タービンホール/ロンドン)  
*Shibboleth*, 2007, Turbine Hall, Tate Modern, London  
Photo by Marcus Leith/ Andrew Dunkley

【資料5：ドリス・サルセド氏からのメッセージ】

広島市長 松井 一實 様

私の作品に対しこのような名誉ある賞を授けて下さり、貴台並びに受賞者選考審議会の皆様に御礼申し上げます。この賞を謹んでお受けさせていただくとともに、今回の受賞は、私の作品に対する評価というだけでなく、今後もその苦しみ  
が忘れ去られることのないよう、人類への暴力行為の犠牲者の体験をテーマに取り  
組んでいく責任を意味するものだと受け取っています。

広島は紛れもなく、その悲惨で恐ろしい体験を通じ、今では我々の道徳的拠り  
所の一つであり、すべての人々に感銘を与える忍耐力と回復力を示す例となって  
います。

ドリス・サルセド